

大阪市のアーケード街の空間的特徴と情景要素に関する研究

関西大学工大学院工学研究科 西野 奈那
関西大学名誉教授 永井 規男

1. 調査の背景と目的

大阪は「商業の町」と呼ばれ、古くは室町時代、安土桃山時代から「天下の台所」と呼ばれる商業集積地である。大阪市内には商店街が507（「大阪市小売業地図」平成11年3月大阪市経済局）ある。そのうち道路の全面を屋根で覆った全蓋式のアーケードをもつ商店街は173と34.1%を占める。一方、東京都23区の面積は616.62km²で、大阪市面積221.30km²の2.78倍であるが、商店街の数は246と大阪市の0.48倍で、そのうち全蓋式アーケードのある商店街は32（13.0%）に過ぎない。このように、大阪市の商店街の特徴は全蓋式アーケードにあるといえる。

全蓋式アーケードのような屋根で覆われた商業空間としては、中近東のアレッポ（シリア）やイスファハーン（イラン）に見られる大規模な屋根付きスーク、バザールやパリ（フランス）のパサージュ、ミラノ（イタリア）のガレリアなどが有名である。マラケシュ（モロッコ）の「ジャマ・エル・フナ広場」はユネスコによる「人類の口承及び無形遺産の傑作の宣言」の文化空間の先行的事例として宣言されている。この広場は古くから町のシンボルであり人々の出会いの場、各地からの文化、娯楽、交易の十字路である。「青空市場」「青空食堂」「青空演芸場」の3つの顔を持ち、それらが時間と共に変化し、活気ある空間を形成している。

それに対し大阪も歴史的な商業集積の町であり、大阪市内に多く分布する全蓋式アーケードを持つ商店街のアーケード内の空間には、独特の文化があると考えられる。

そこで、本研究では、大阪市の商店街のうち全蓋式アーケードをもつ一連の商店街をアーケード街と定義し、その空間的特徴と情景要素を抽出することにより、大阪市のアーケード街の文化空間として評価するための基礎的なデータを得ることを目的とする。

2. 大阪市のアーケード街の概要

図1は大阪市内の全蓋式アーケード街66の分布を示したものである。全域的に広く分布していることがわかる。また、その形成時期と規模を表1に示す。アーケードの原型は、道路の両側に鉄製の細い支柱が立てられ、その上方を同じく鉄製の細い桁で連結し、桁から桁へ布製の覆いを渡した「日覆い」と呼ばれるものである。昭和10年当時、全国に存在していた「日覆い」のある商店街の1/5が大阪市内にあったといわれている。

大阪市内のアーケード街の距離と幅員を計測したところ、最長は心斎橋筋アーケード街で2591m、最短が阪和会アーケード街の77mであった。平均は約440mであり、200～300mの距離のものが最も多かった。

幅員は6mのアーケード街が最も多く、平均も6mであった。最も幅員が広いのは九条アーケード街の一部であるナインモール九条で12m

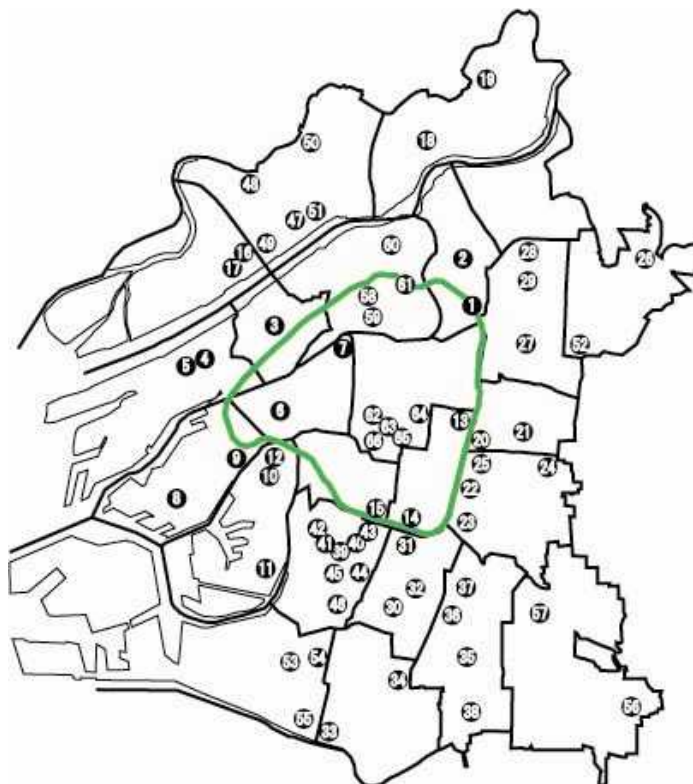


図1 大阪市のアーケード街分布図

表2 店舗の業種別分類

1. 日用品(生鮮食料品、一般食料品、生活用品、薬局等)
2. 美容・健康(美容院、病院、マッサージ等)
3. 飲食(喫茶、食事処、居酒屋等)
4. 娯楽(パチンコ、ゲームセンター、カラオケ、占い等)
5. 非日用品(家電、家具、スポーツ用品関連、花屋等)
6. ファッション(衣料品等)
7. その他(銀行、不動産等)
8. 教養(本、文具、音楽、美術等)

であった。次いで、四貫島アーケード街、春日出アーケード街、平尾アーケード街の9mが広がった。最も狭いものは南陽通アーケード街、阪和会アーケード街、鶴橋アーケード街の4mであった。阪和会アーケード街が距離、幅員とも大阪市内において最小の規模のものであった。

すべてのアーケード街の店舗を8業種(表2)に分類した。「日用品」が最も多いアーケード街が39で59.1%、「飲食」が最も多いものが13で19.7%、「ファッション」が最も多いものが13で19.7%、「非日用品」が最も多いアーケード街は千日前道具屋筋アーケード街の1つで1.5%となった。

JR 大阪環状線沿いや大阪市の中心部に位置するアーケード街は「飲食店」と「ファッション」関連の店舗が多く、交通機関を利用し、娯楽やショッピングのために周辺から人々が集まるアーケード街であることがわかる。JR 大阪環状線内を除く市域には日用品の取り扱いを主とするアーケード街が散在しており、周辺の住人が食料品や生活用品を調達する、生活の場としてのアーケード街となっている。千日前道具屋筋アーケード街は、唯一、他のアーケード街とは一線を画した同業種のアーケード街である。大阪のアーケード街には繁華街としてのアーケード街、日常生活に密接したアーケード街、同業種の集まったアーケード街の3タイプがあった。

3. 大阪市のアーケード街の空間的特徴

(1) 調査対象と調査方法

戦前に「日覆い」を持っていた8のアーケード街と、規模の異なる14のアーケード街を合わせて22のアーケード街を調査対象として、2005年10月から2006年1月に観察調査を行った。調査項目はアーケードの形状である。さらに、この調査対象に南陽通アーケード街と相合橋筋アーケード街を加えて24のアーケード

表1 大阪市内のアーケード街の形成時期と規模

アーケード街名	所在地	戦前から商店街として存在するもの	アーケードが出来た時期	全長(m)	幅員(m)	全店舗数
1 京橋	都島区東野田町			525	4.5	141
2 都島桜通	都島区都島本通			171	6	32
3 野田新橋筋	福島区吉野			204	4.5	111
4 四貫島	此花区四貫島、梅香			706	9	119
5 春日出	此花区春日出北			330	9	58
6 九条新道	西区九条		昭和33年	1082	6(12)	268
7 肥後橋	西区江戸堀			84	4.5	8
8 八幡屋	港区八幡屋			276	6	82
9 繁栄会	港区南市岡			135	6	27
10 泉尾	大正区泉尾			395	6	92
11 平尾	大正区平尾			258	8	59
12 三泉	大正区三軒家西			239	4.5	58
13 玉造日之出通	天王寺区玉造元町		昭和45年	430	4.5	91
14 阪和会	天王寺区堀越町			77	4	18
15 南陽通	浪速区恵美須東			150	4	45
16 柏里本通	西淀川区柏里			165	8	21
17 野里本町	西淀川区野里			195	6	28
18 淡路	東淀川区淡路、東淡路		昭和27年	571	6	95
19 稲荷	東淀川区小松			78	4.5	15
20 東小橋南、鶴橋	東成区東小橋			1128	6(4)	398
21 今里	東成区大今里、神路		昭和20年	895	4.5	217
22 桃谷本通	生野区桃谷、勝山北			479	4.5	143
23 生野本通	生野区生野東、林寺、生野西			877	4.5	237
24 大友	生野区小路			173	6	35
25 鶴橋本通	生野区鶴橋			368	6	66
26 千林	旭区森小路、千林、今市		昭和33年	1170	6	275
27 南鴨野	城東区鴨野東			98	4.5	33
28 関目	城東区関目			90	8	12
29 城東	城東区今福西		昭和39年	225	7.5	30
30 王子	阿倍野区阪南町			543	4.5	145
31 近鉄西通	阿倍野区阿倍野筋			135	6	17
32 文の里	阿倍野区昭和町			288	4.5	81
33 あびこ	住吉区清水丘			188	4.5	39
34 長居	住吉区長居			168	8	36
35 駒川	東住吉区駒川		昭和32年	391	6	104
36 南田辺	東住吉区南田辺、田辺			375	6	40
37 北田辺	東住吉区北田辺			249	6	65
38 住道	東住吉区住道矢田			170	4.5	45
39 サンスーク	西成区花園			142	4.5	42
40 菽之茶屋	西成区菽之茶屋			260	6	55
41 鶴見橋	西成区鶴見橋			937	6	232
42 津守	西成区津守			90	6	22
43 飛田	西成区山王、山王町、太子、天下茶屋北			963	6	256
44 天下茶屋	西成区天下茶屋			210	6	54
45 西天下茶屋	西成区千本北			570	6	57
46 玉出	西成区玉出中			360	7	58
47 十三	淀川区十三本町、十三東			930	8	192
48 三津屋	淀川区三津屋北、三津屋中			450	4.5	107
49 塚本	淀川区塚本			158	8	32
50 三国	淀川区西三国			580	6	121
51 木川本町	淀川区十三東			120	4.5	28
52 放出みゆき	鶴見区放出東			233	4.5	24
53 加賀屋	住之江区中加賀屋			428	8	88
54 粉浜	住之江区粉浜			706	4.5	138
55 安立	住之江区安立			308	6	58
56 長吉中央	平野区長吉六反			143	6	36
57 平野	平野区平野本町		昭和33年	697	4.5	92
58 阪急東通	北区小松原町、堂山町			751	6	104
59 お初天神	北区曾根崎			255	6	36
60 中崎	北区中崎、黒崎町、浪花町			399	6	91
61 天神橋筋	北区天神橋			1833	6	461
62 心斎橋筋	中央区心斎橋筋、南船場、難波千日前、難波、千日前、道頓堀、南本町、久太郎町		昭和34年	2591	6	466
63 相合橋筋	中央区道頓堀、千日前			158	6	32
64 空堀	中央区谷町、瓦屋町		昭和33年	486	8	121
65 黒門市場	中央区日本橋			330	6	131
66 千日前道具屋筋	中央区難波千日前		昭和38年	120	6	41

調査を行ったアーケード街

- ：戦前から商店街が形成されていたアーケード街
- ：戦前から商店街が形成され、日覆いが設置されていたアーケード街

街で、情景のカメラで撮影する調査を行った。2005年10月から2006年2月、様々な曜日、時間帯における人々や物の情景を写真に撮影した。

(2) アーケードの形状

調査対象のアーケード街の管理団体の数は全部で73ある。アーケードは一連のアーケードであっても、管理団体が異なればそれぞれに違ったデザインを持っている。また、黒門市場アーケード街と今里アーケード街の神路一番街商店街は2種のアーケードで構成されていたので、アーケード数を75とした。

アーケードの形状は「アーチ型」が最も多く46で63.0%、次に「合掌型」が24で32.9%、最も少なかったのが「水平型」の5で6.85%となっている。これらは素材により、さらに細かく分類することができた。

「アーチ型」は半透明の素材で作られアーチが深いもの、半透明の素材で作られアーチが浅いもの、天幕で作られているもの、半透明の素材と天幕が併用されているもの、その他、の5タイプであった。は18で39.1%、は9で19.7%、は7で15.2%、は3で6.5%、は9で19.7%であった。半透明の素材でアーチの深いものが最も多かった。アーチ型はアーケード街の6割を占め、一般的なものといえる。

「合掌型」は半透明の素材で作られ断面が山形のもの、半透明の素材で作られ断面が五角形のもの、天幕で作られているもの、その他、の4タイプに分類できた。は4で16.7%、は4で16.7%、は14で58.3%、は2で8.3%であった。合掌型は天幕のものが最も多かった。

「水平型」はルーバーが用いられているもの、その他、の2タイプであった。は4で80.0%、は1で20.0%であった。

アーチ型では半透明のもの、合掌型では天幕、水平型ではルーバーのものがそれぞれ多く、形状によって、使われる素材が異なっている。比較的新しいアーケードには半透明の素材が使われており、ギャラリーなどの影響と思われるドームが要所に設置されているアーケード街もあった。また、黒門市場アーケード街はステンドグラスのように着色された素材を使用しており、駒川アーケード街では円形の天窓のようなデザインのアーケードとなっていた。それぞれに素材やデザインを工夫し、そのアーケード街の内部空間の印象を特徴付け、演出していることがわかった。

(3) アーケード街にみられる情景要素

アーケード街でカメラ撮影により採取した情景は、1500である。これらを構成要素により、「通行」「会話」「パフォーマンス」「陳列」「取引」「飲食」「遊戯」「照明」「音響」の9つの情景に分類した。

アーケード街は街路であるので、流れをつくり「通行」している人々が見られた(写真1)。通路空間の隅や店舗の前などで「会話」をしている人が見られた(写真2)。仮設の店舗を路上に設置して調理をしている様子や、手をたたきながら客に呼びかけている様子、閉店後の店舗の前で似顔絵を描いている人など、人々の目を引く売り手の「パフォーマンス」が見られた(写真3)。アーケード街では雨風の影響を受けないため、商品を通路にまではみ出して「陳列」している状態が見られた(写真4)。店先、特に「陳列」された商品の前で、客が売り手と話しながら買い物をする「取引」が見られた(写真5)。通路に面して作り付けのカウンターがあり、そこで「飲食」している様子が見られた(写真6)。ゲームセンターでは通路にはみ出すように設置されたゲーム機で遊ぶ、「遊戯」の様子も見られた(写真7)。



写真1「通行」



写真2「会話」



写真3「パフォーマンス」



写真4「陳列」



写真5「取引」



写真6「飲食」



写真7「遊戯」



写真8「照明(昼)」



写真9「照明(夜)」

日中はアーケードから光が入る様子、夜間は「照明」が点けられて明るく保たれている様子が見られた(写真8・9)。このように昼と夜とで内部の印象が異なっていた。また、このほかに、アーケード街外部の音は聞こえにくく、内部の音はよく響くという特徴を持っており、客に呼びかける「パフォーマンス」の音がよく響いていた。このように、アーケード街は特有の「音響」効果を持っており、これがアーケード街の賑わいを助けている。

5. 調査結果と考察

大阪市内の全蓋式アーケード街は、大規模のものから小規模のもの、日常生活に密接に関わっているものから繁華街的なもの、特殊な業種が集まったものまで、様々な性格を持っていることがわかった。アーケードの形状もさまざま、それぞれ個性を持たせ独特の内部空間を演出しており、空間造形として興味深いものであった。

アーケード街の内部では多くの情景が見られた。人々の行動は流動的であるが、雨風を凌ぐことができ、半密閉空間であることから、それぞれの要素が互いに濃密に助長された情景が展開され、独特の活気をもっていた。また店舗の閉店後のシャッターの前に似顔絵屋や占い師などが現れるアーケード街もあり、昼と夜とで違った顔を持っていた。

このように、大阪市内のアーケード街はさまざまな情景を見出すことの出来る「文化空間」として評価できる素質を十分に持っていると考えられる。

参考文献

月刊文化財 No.455 / 第一法規 / 2001年8月

大阪市商業小売地図 / 大阪市経済局 / 平成11年

アーケードの原型としての日覆いに関する研究 / 辻原万規彦、藤原里佳 / 日本建築学会計画系論文集 NO.596

元気のある商店街の形成千林商店街とその周辺 / 石村真一 / 東方出版 / 2004年4月5日

紀行モロコシ / 那谷敏郎 / 新潮社 / 1984年